仰鎗者迫本過高人
連者揚作弦明乘
芝直者杉彦者
也尼出家
硯水翁七十壽進　獻

祝夫人を祝なりて
七十八まとの
たえの二葉にて
まのちとせを
まつそ久しき

しげ基

庵の杖集

洛の水翁古稀の祝筵を
孤松園にひらかるゝを寿て

此松のこゝろにまかぬ影ふかき　桐窓

あやからん老人寿の花のいろ　掌山

七重八重切先ひろまる繁ふかさ　翠彩

七草や是からのびる日の光り　芝園

梅さくれ殖てめでたき影くれ　新居

ゆやしのらん花に月出友としの陂　喬鳥

とゝゝゝゝ匂ひまさりぬ尾の梅　松亀
百年も流れよるらんまつのみ　丹英
七種ゝゝ千代のたあ一のいやし　梅下
枝ふゝもまれ乳尾手や梅のもと　喜水

右玉甫社友祝吟

百まてハ強つよ宮ゝ弘　信三原　多賀
さゝまてのゆゝゝゝ梅のもと、　湖石
いつゝ月もうゝゝぬ松のすゝゝ、　南皐

鳥を砕ゝ梅も都の祝ゝゝ　甲山　完良
ゆきゝゝ松ひきき柳の口脇　、　紫風
ゝゝゝ松よ君のすゝゝやゝゝ梅　、　先頻
ゝゝの野都の宮を拝ひゝゝ　、　可月
末松よ流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　、　合桂
かゝゝのひゝ柳まれなるゝゝ乳　上下　扶桑
七福のひゝ芸つゝゝゝの風　、　寥蕪
十ゝのゝゝの松ゝ寿ゝ年の宮　摩　子頑

ひらくもつもあやいきの三尺員、霍令
徒年旬ふ末ふりやらめのそれ、羽雪
もあもそ吟さくれるちより 霊条 竹等
いくとも同しかや身と梅、東池
ふくまの中去年よりまたる旬の弘、梅函
万方やいくそ変ちもけめ兵、巨友
ちく弾ちもらくめ梅の句の弘、青柳
茅朱ものおくめ梅の茎ふ弘、松風

凡あれい尚しそ雪の不二、頑矢
老て尚ちらくやや茅ぬめ、梅晃
もも淵茅ちち梅のさくを、罕閑
しくの山年こ傳ふ松一木 フクル 学乗
英弓の老て尚より寿の月、蒜信
と老かくも栄ふ老の弓ちれ、松屋
玉苗の移のまうなき歌うな、晃村
おのしろやはちさくそこ指茅示 マキ二方 外亮

古方の赤らむ枝うち、　梅芳
移りて又自めらきん梅のを、　池煙
宮のふ松ふ又曳きうられうく　狐媒
いく夢も莫ふ同一尾のうめ　杏理
いくふ代の節も定めて古し竹　桂渕

古谷祝吟前文略

自賀

寒枝もうるきて誠ぬ妻の山　碩水
東方のもしき正月の旅　森水
のりる日は日新のうる弱吟て　桐斎
つの掃除ふ怠うて　翠彩
参らうる月もむつ中枕大京門　鄭舟
志うい寿命のさつうとよき　松雀
立待も居待も無るれ天寿ゆれ　梅下
そよし自ふ生来年乃　稲　喬鳥

手代して業集する里の秋　左て

深弘味噌こふ名きあつし　西柳

うつそうと旅を苔の菓子哉　嘗山

きつしてそぬ夕の書やう　芝雪

あらうもるて役者の来る時き　太良

時候もよろしく和月中旬　木和

寒参るる小供のいちこ呉るる　且雨

そ遠おくてゆるしてれし　梅郷

いさ青といふて拾る百日紅のさし　丹英

よくくもちうきくす写　彩

正化寒小秋の寒さも別ちて　高

色よ菓旅をのやる乗立　園

きのふふふすくの花小咲抽孔　石

音味やうのひ一羽活の夏を　柳

夏先ハどくもたの祝ひる　山

譲りの下着つまむ隠門　和

孫信人めをしふ神彩
頑
彩りもれ家の明るい
真
元亨の世もなき三上山
高
さて業て玉のきる道を
烏
扇よりきい腸をうちハし
英
正役はれ叶ふれさ
真
年号て繁の思ひも不約合
形
四季のない医者の変ゆき
柳

辞同士ひとつの庵を便りて
高
普請の屋く金比羅の宮
彩
月きよ入十分ゑも志ゆうし
柳
さ川乃ゆる彩の新き
烏
三年経きるも彼岸の拵ゆ
英
客の月さ年表ゆすゆ
柳
結弼の仕切ゆける京花脇
秋
業外あゆ海ーー和産
烏

牡丹花一瓣をたてやし　新

十指ひらく第ひらく　高

何ものをしてもゆるす天叢白　英

月うつるうてあを無等　小

庭てのあ藤をとる大観　柳

くらしよりのんちと思き球ゆる　高

久しぶり雄侯の兄のときふれて　園

涼り羽織のもるるあり　春

花さうぶ宵を寿命は旬ぶらん　東都雲水　木和

跡を一めんは苔の蔭ら　執筆

右五十員　玉浦社友

頌水宗匠の古稀を祝ひまつりて　椿翁

七稀は風もさぶく廣野ゆ

新の如くにて并く家の戸　頌水

ものしすり餅かんは新しくて　芦棠

[illegible]組の[illegible]門職　益海
行[illegible]てまるむ[illegible]の月　如水
新田の[illegible]の中一分[illegible]き　妙不
[illegible]を連て[illegible]の[illegible]紀より　頑
四[illegible]より[illegible]の[illegible]　雀
[illegible]人も[illegible]里[illegible]より　棠
[illegible]を神[illegible]む恒こ　不
[illegible]の[illegible]の[illegible]より[illegible]　益

[illegible]の[illegible]月[illegible]山の陽　雀
[illegible]も[illegible]の[illegible]て　如
かりの[illegible]き井[illegible]の[illegible]　棠
たし[illegible]の[illegible]ふ[illegible]水[illegible]　不
[illegible]井の[illegible]ち荷[illegible]ぬ　雀
[illegible]代[illegible]ん[illegible]松　雀
[illegible]の[illegible]千[illegible]夾[illegible]紀　孰軍

右西俣田房町社友

自哭

つくゑもとすれてこし女夫の山　雅丹

星も行くる路のうち雲　冥路

山士家も人家庭藤や波ぬらん　福鶴

歩りこころの煙き砂うち　松風

ののあらしこころ月のあれ　竹等

家まつうしめる梅萱　巨友

少祠を中まるく和歌して　可乃

奈良の墨屋のあるは　青柳

思ひとはれは住るも自然　鄭里

やきる鶯をくやむ山上　梅寛

入れ手蔵ても役を辞退て　楊青

きいとこころ月ふ一ら裏　馬猿

月よ長すすき撞をり庵　東池

吉思俗衣の船きうよき　記塚

大移れ十家鶯きゑ魚問屋　菊寿

角力をやあて風呂やあつめる　梅面
年を経し一木の花千姫ぶく　雲裡
まつさかりハ梯ぬけの船　酔矢

古同　西城町　社友

播磨

毎のたのぬれて時ふる夏の雨　別ノ　木鄙
黄昏のまつもきくや舟上り　、　掬月
山うらや麦畑ひとり黄昏る　赤穂　釜雄

青葉やさくも宿も桐あるを　、　美梅
竹ぶきのとりきのとりの根　、　花月
きつれ冬の菜先ゝ湧うゝ　、　嘉山
まゝはゝ行れぬ家や帰る　、　藤皇
咲あれあるの日和や落葉　、　柳嘉
ひくすゝ音て思ふ冬の海　、　清石
白浪や江を有明て明の夢　、　梅節
汲あゝ井の水あゝ冬牡丹　、　塵外

備前

[illegible]の水[illegible]を[illegible]しく[illegible]
[illegible]の人[illegible]移[illegible]寒[illegible]、　源氏路　源氏
[illegible]の[illegible]の[illegible]上[illegible]　世香　帆影
村[illegible]も[illegible]成[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]、　芦玉
[illegible]や[illegible]の[illegible]、　夏石
五月[illegible]や[illegible]を[illegible]ぬ[illegible]千[illegible]　天籟
名[illegible]の[illegible]と一[illegible]成[illegible]牡丹[illegible]　木張

[illegible]年[illegible]成[illegible]く[illegible]　源く
[illegible]を行[illegible]て[illegible]撫や　新[illegible]の[illegible]　岡山　松雨

西備

門[illegible]移[illegible]ちく新　朗　尾道　梓菊
一ッ来て鳴[illegible]け[illegible]初[illegible]寺、　松衣女
[illegible]やう西風吹[illegible]の[illegible]、　梅卿
つ[illegible]て人行日[illegible]の[illegible]、　雨柳
永[illegible]や何を思[illegible]て鳴　鶏、　太良

暑のはらて面も殿なる田植うえ、左乙
ふり出る雨に伸るやこと仕竹、可咲
初時や風も四しき毛日より、李蹊
庭まつたはらしろへ守時きりぶ 三京 梅園
あ雷は日ハ取のうゝゝてきこの色 上下 青我
敷意や水貸石屋の戸のひつを カミシタ 可矢
畑うちのうて春るる宮の言根ぶ 田山 竹韻
奥ふのく尺通す石や梅うゑる、旭山

しらつゆの蔵て酒石の上 赤川 梅朗
芦井の霧子ちうき旅路ぶ、稚女
拭入て客待うきの大鉢うゑ 田房 茅棠
山さとの人うふやま、和もち、竹不
猶ふ里下ゝ雪下や爽のあき、笠海
子ゝうとハ思ひ外ゝ世月、如水
ちうゝ蔵るりきもゝ氏赤椿 栗 起蝶
狩猟なく郭ゝ乃蔵ゝ花のうえ、梅舘

安藝

常月もとゝあるや　水仙寺　本々　甚木

入らぬものさつまの賞や年の市、　煙霞

寒まゝ寺影ゆゝしこゝ仏、　春潮

さつきや山ちるもの長羽折　竹原　蕉庵

五月雨や明るも日和の風まぶる　セトタ　快々

寒ゝ梅の咲さ屋ゝ　室月、　松江

さつきの海まつてゆかの要、　杏村

つ打や立てゝこれい尾ゝ寺、　寺園

庭石のすゝられて雪見家、　竹下

火のおこしゝ川拾て二日灸、　木鳥

瓦山のゝへ千まゝて冬の月、　陳年

讃改

宗ゝの一戸ゝや山の雪　ゆ豆時　雪石

白ゆゝを先ゝ人ゝ大根引、　蕉水

屋まゝゝ子も屋を作すねんね、　梅雪

[illegible]へ行くく坂をふくる乳、在水
舟右のもてあそぶ庵松風、嵩山
月さして影をうくるちうり、可涼
ちをぬらすをし　計任子、秋起
[illegible]のもれくる軒戸の山、辰年

伊豫

ひく松や三日月ゑるよい尾　小洋
ちりと点の来るや傳子よ梅の花、指月

えて居れい人も来てうる梅弘、書渡
いさ貴や度本のもうる梅の弱、寿雪
よ来面のしつくよくく牡丹乳、蕉均
き入る旭ゑ面ものや　つの氏、鼎
あるくいよ面もさ[illegible]寺新蕉弘　今治　半亜
新てそや南い好のる性乳、桂子
咲くうる表れきの蕉のゆれうる、英甫
おしめうる毛面ゆうる八ゆ重、松圃

さたくや種ゆへて花て服の色くる　橋井　蘆岬

色行や雪ふきき山もめてくる　西条　大夢

うたす月の小雪ふきき夜のたくる　梅豪

雪ふ行やこそ行てゆくるれのも　アラ山　樊圃

花屑の川素くるや　仏生寺　星凌

雪人の素て物をくるすはふ　一初

丹波　丹後但馬

ふまきゆて家行新樹くる　ワタ山　ます女

行一枝素て雪ふくる新樹ふ　イサ　行雄

牡丹見や中免の咲ま一矢ふ　湯村　一溪

風炉先の雪を明れハ帰ア、夏山

子供よてとも取きく夏初ふ　宮津　梅溪

伊用若も裏くもりや年の夢、玉水

ふくふ行拾　燈する峠くれ、南未

廻板子尾緒の余る　鶴ヒロキ　タミ　湛妙

雪のりや下女日めくく飯の雪素　カモチ　柳之

因幡

折てり人こそもの思ひ山　鳥取　樹平

きつの原山ひかり后の月、　盤山

そこ〻変といふ方もなし　立華、　さゝへ

引渡すまゝ穿色の雪解水、　稲美

こゝの夏や板一本そよ〻〻、　巴大

ちりれや出水ふかう、　宗旭

ふる雪も降ふ寺もちの雪、　素后

大井川まゝそ初ちるすいりう水、　孝光

松杉や境内ひろしねすむ、　司乙

村〻や煙りもんとの仕菊ち、　碎月

燈ちるふ秋の月あるおろり水、　丁丑

志つゝりの水ふをえきてゝふり、　西岱

雪ふも白い寒中やうあの雪、　宗和

秋かゝや木ゝのすゝもあのむ、　青城

夏ちの寺守初の浸りの中夜水、　應波

きり夏や先一年のこゝろ　俳川
あるのねきつてねるや別やま　義弓
山里や二日ばかり寺に居て　秀芳
不所存人も来うゑ松のもち　荷山
月家うる片假野や金の月　みのり
元日や海をかゝめふしの山　一樹
初秋や先ゝ月の月の月　多門
きつ切や殿ゝ時しの西の宿　天秀

伯耆　出雲

立ちて蔵つく拵や初れ　効京
昔みや先おちつきの弟走ふり　真人
咲てある牡丹や一人掃をゝ　梅暦
寒い蔵いろゝもゝ梅れ　橘傳
名月やのそゝ通りの松のく　孝子
川口や春待舟のむつかしき　亀友
幕目のつく日初や梅うる　柳青

水傳ヒ育ちもしまぬ垣隣　赤崎　弓東

大仏ちて

待宵や木蘭着ちる山法師　淀江　震外

落ちの咲し枯ちる　別源氏　大分　可龍

孫畑や月も砂のゆくまち　新田　清雄

煎茶ちいちとつよる清水ぶ　中ツ　玄珠

ちちちのちれも名砂や萩のも　松江　曲川

川舟ちち人のちちすちぶ　前路

於小川氏興行

蓬莱の青海原や新たち　桐高

飼茨ちの完な傘　碩水

招きのはちる和出代ちる　木和

青信もちち新勝ちち　高

前ちちぬいちのちち月の長　水

霧ちちつち松をはちち　和

野ちち茶店茶のはちち　高

もの覚よき女子者人　水
仍解する孫のうんの芋双葉　和
まくり屏風もまくるぬる　高
麦蒔くとはものめを行る者　水
飯汁して安らんやくそく　和
和月歌葉外かなの志川うと　高
本町すちの盆の寺羅さ　水
鬼灯の苞なとさけて安くのり　和

奇へまいくて見きい知う人　高
ちくもじはら祇園すまつは　水
培の日うけを返て私　和
いつくやの書和今もらうて　仝
勝と思ふ碁の負なる　高
はちうが投て掛乞きうう　水
ものの来るのう家来筋より　和
生壁の移くをいそく火を焚て　高

高山桜手折て為南門まる　秀

ほこう恋ハまくい岸ゆなるめさ紀　和

娘ほとゝぎすハ夢の百年河　高

南角に同じ長暖の流れ居　秀

お水汲の拐ちまま遠ふ　和

ゆくひとつなくて涼しき夢の月　高

錆まくらすかまる旅ちち　秀

用事ゝ乳組合寺ゝ形ゝおき　和

勝負も火行きれし未刻色　高

洗濯ゝ稀の日和干たまて　秀

ぢんと屋まてゝ赤の蕎麦色　和

今も尚ゝる洗ゝいある志賀のお　高

古風手習ふ曲水の友　秀

近江　伊賀　伊勢

猪乗の花見やゆのあるまり　栗津　蟻洞

[illegible]て生ふる抵[illegible]所　八幡　箕玉

[illegible]ちる毛の沒[illegible]新さ九[illegible]　大津　春山

[illegible]やせ[illegible]ふ添ふて吟者　大[illegible]　虚栗

[illegible]ものよ　前橋　上野　養瓜

明る戸に添ふてきし也和り水、　春斐

和東風や去年の引来もこ[illegible]門、　逸史

山里の人等[illegible]　和松魚　山田　霍渚

尾張

弓ハしあ[illegible]屋もの[illegible]素[illegible]乳　ナコヤ　流翠

[illegible]無の[illegible]つ天や[illegible]きすゝ乳水、　義岳

引汐さつれてもゆ[illegible]萩の声、　素溪

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]雪や屋の松、　羽洲

駿河　遠江　三河

梅[illegible]打[illegible]し老のちる葉　吉田　蓬宇

[illegible]て[illegible]も引義に添れ[illegible]り　見付　杜水

[illegible]しさや[illegible]の面　協井　嵐牛

引のこす鶏頭ふたつ　フタタ　春告
夕くれや無栗を落す板ひさし　シタタ　清節

武蔵

ちつちのうもれて萩　横浜　翠兄
ものせのまんと定まる牡丹芽　東京　春湖
妻ふたりまたしきまゝ月夜　黙平
つもるやまゝ用さぶき人通り　完路
出つけて芋掘出る　茶兄

酔ハうれ風ふくれて仲　鶏　是三
月秋や庵ちく人まるのゆゝ　梅年
さゝくこと森耳ゝ少や世の宮　三水
やゝ寒や引月ゝ沈引ゝ　東枝
すゝ風ゆつくむまを法庵　枝鶏
山ひとつもゝ家形ゝ木立　壷公
ワゝ入るやゝ氣ゝ柴の梅ゝ　兮栽
ものゝ学ゝ詩ゝむゝ形ゝ考ゝ　乃山

加賀

明てゐる戸やちるかすみ　金沢　吉兼

芦のたのすゝゝゝゝゝの月　希云

苔代や寄れ乱れの有あり　眠芩

すゝれ誘ひつゝたゝゝ夕嵐　古只

音れの寺の陽らして五月雨　西巷

くゝり結ぶ月をゆんや　時雨　梅呂

外のこすたゝのそよ紀や庵の風　雄巴

[illegible]けれて炉さく森の夏の月　甫立

きのふこゝかへてこて音やこゝ藤の色　李皐

夏れや儀ゝつゝる　艶　屑　宮越　時裁

和もゝ思ひ通ゝゝゝゝ　金沢　晴江

志ゝゝの窓く歩ゝ背あやめ　小松　呼洞

ゆゝ雑古の釣日音味よきの色　誉流

元日やきよ紀住居もるの昌　白碩

夏ノこのてよゝゝゝゝの雪　查月

うきてあるものとなりて相の色、　金翁
すまるものの文多しとのこれ、　岳左
七夕のまつれ寺なるや蹄脚戸、　松吹
庭の舞義文行とあるや鼓よろ、　李邑
やふ入とつのてよまるや併の子、　不脂

能登

戸のすきま明りのうて、初鶏（ハシヤ）　坊屋
日くらし鳥を並へて鼓の音　寺口　素有

薄のもの云ふ日とて爽の磨　（トキ）　亀声
稲つくと言のきくんや秋日よる　（一院）　風兮

越前

初月まて蒼の数や市の梅　（元力）　菊堂
つき出して地梅形きるふ舟乱、　花渓
ふりとくる白とし丸雪のうめ、　宿葉
青吟て馬うら下りるしうれ、　瓢水
ものをふ女裾すうれ芸下戸　（元色）　舟晩

二階にもたれあり蕭のもと　九四　東井

遊歴

月すむや美濃成瀬の稲のうへ　菜菊

初雪の曙やゆかりの門　梨春

妻をまつてたよりや松の事　虚實

頑水翁の古稀を祝して

はやうゝん年を上せやあの友　木和

松年杖つゝきて君ハ長門　長門　古蕉

不のしと蕣けるや垣のもと　九十六　松堅

いかつまの伊勢やや夜這むし　九十一　良徳

拐小木ゝまるれ蓼のもさゝり　八十九　宗鑑

りんの乃ぞもるゆかれ　八十九　梅盛

小侍ハ猿のおもゝや接もる　八十八　舊國

秋の日のいらしきやとも　八十七　夏義

御接したるてまるやいゝまこれ　八十六　寸風

山里ハ宵かゝら文てねとの恋　八十五　多子女

吟やむ事なかるちくれ　八十四　鳳朗
乃こもりて来てゆゝ山　八十四　蒼虬
地を嵩て抓むるくきゆるゆ　八十四　悠々
明と衣ハ元ゝさきたちる　八十四　梅室
ふ雪のつゝゝ〇ひろ不二の山　八十三　一枝
おこゝろ〇〇咲て鼻ゝ葵ゆ　八十三　才麿
かさゝと落て雨ゝも出よ衣ゝの月　八十三　貞徳
秋のゆの元るゝゝられて月衣ゆ　八十三　八千房

蔓ゝ孫ゝありてや苔のうへ　八十三　一学
重月を一度ゝする和月ゆ　八十三　重一
世ゝふるゝ時ゝ財布のやゝゝ　八十三　宗祇
煙し重て藤ぶ花伽の炭火れ　八十一　乾坤
衣ゝ人十日ゝゝハむ内ゝゝ　八十一　野坡
ふのもの蔵ゝハ風のおゝゝゝ　八十　玄札
ゆゝゆ日や其日しのゝびのゝか来　八十　杉風

右長寿の古人を交る出す

○

賀ありて引人もあり初子の日　洽山

めでたく開く日まつ福寿草　良大

夕霧や晴れ都より八月の雲　文海

埋火や明る夜遠きひとり言　黙池

畑の赤もやふ未も梅の小里乳　芹舎

上加茂より祈しても

元日や世のちり拂ふ水煙り　碩水

甲戌の春日

甲戌
（明治七年）

7